

令和7年度釜石市市政懇談会会議録【質疑応答・概要】

日時 令和8年1月26日（月）18時30分～20時

場所 中妻地区生活応援センター

参加者数 13人

■質疑応答

- ① 第六次釜石市総合計画後期基本計画について
- ② 釜石市立地適正化計画について
- ③ その他

【Aさん】

この中には一切予算の説明がありませんよね。予算額の規模や中身はどうなっていますか。

<総合政策課長>

今回示している計画は、今後5年間こういった方向でまちづくりを行っていきましようといった基本的な目標になっています。総合計画は3つの柱からなっていて、実施計画といって毎年向こう3か年で行う事業を計画していただきたいの予算額やこういった事業をやるといった計画を作っています。後期計画が成案になった後、実施計画については来年度以降毎年作りながら、作った実施計画はホームページや議会に公表し市民の皆さんに説明していくことになっています。逆説的に申し上げますと今の時点では予算規模や具体的な事業内容については見えない状況にあります。

【Aさん】

おかしくないですか。普通はある程度予算を計画してからこのような計画をするものではないですか。

<総務企画部長>

全くもってその通りです。今、総合政策課長が申し上げたとおり向こう3年間の計画をやっていくことはそうなのですが、実際どのくらいの予算規模でやっていくのかということをご説明しますと、今年度の一般会見の予算額は240～250億くらいだと思います。現時点でこのくらいの額ですが、これから人口が減って収入が少なくなっていけばそれに見合った支出の額を計画していかなければいけません。現在は大型事業として新市庁舎の建設をやっていますのでそのくらいの予算規模になっていますが、令和8年度に新市庁舎が完成して大型事業がなくなれば210億～220億くらいの予算規模に

なっていくと考えています。その次以降も、釜石市とすれば200億くらいの予算規模が一般会計でできる予算規模かと思しますので、その中で収入と支出のバランスを取りながら計画5年間を考えていきたいと思っています。

【Bさん】

隣接市町村との対応はあるのですか。大槌町との合併は一言も出ていませんが、何十年後かにはそういう話が出てくるかと思えます。その辺はいかがでしょうか。

<総合政策課長>

平成の大合併で、岩手県内も色々な自治体が合併し、釜石市においても震災前に大槌町との合併が議論されて、最終的には大槌町の方に否決されたという状況です。ただ震災後、合併するかしないかというような議論は、そこまで行われていないのですが今後人口が減少して、各市町村の予算が縮小していく中で、隣同士の市町村での連携という視点が重要だと思っています。それを踏まえて、釜石市と大槌町は合併まではいきませんが、定住自立圏構想というような協定を結び、例えば健康診断をやるときには大槌町と合同でやることによって経費を圧縮し、残った経費は別な事業に使うなど。あとは職員の研修も合同でやることによって効率的に、予算を軽減して行き、予算を別な住民サービスに使うといった連携もこの計画の中で掲げています。大槌町だけでなく震災後、北は洋野町、南は陸前高田市等の13市町村で岩手三陸連携会議を結び、観光振興等を一緒に結んで今後後期計画においても連携事業を行っていききたいというふうに考えています。

【Cさん】

人口が25年後に15,000人とありますが、13,000人が現実的だと思うわけです。推計は色々な条件を加味して作っているわけですから、色々な政策をしても長期的傾向としては、そういう結果になるのだらうと。事実、現在値がそういう感じで動いていますから。ただ、私はそこで諦めて何やっても無駄だということではなく、そういう現実があるからこそ色々な施策を釜石なりに考えてやっていただきたいと思っています。地域会議のときも、どんどん人口が減っているのを新たにプラスで対策を立てなければいけないのではないですかと言いましたが、当方はやることはやっていますからということで終わったと思います。今回のこの計画にプラスになっているかを見ると、前期からあまり代わり映えしていません。

話がちょっと飛びますが、地域の計画で中央部に集中すると。しかしその中で、離れたところもそれなりに対応すると。ここに住んでいる人はそれなりにコンパクトな地域だろうと思うけれども、目的に沿っていないですね。集中しないで全てに目を配る。集中して効率を上げることと、周辺にも気を配ること。それは比率の問題なのか。根本的には色々な手当はするけれど、その中心部に集中してやると。やるからにはそういった手当は

するけれど中心部の機能を集中してやると言った強い意識がないような気がします。八方美人でどの意見に対しても切り捨てないで納得していただきたいと。何かありましたらお答えをお願いします。

<オープンシティ・プロモーション室長>

昨年4月に釜石市人口ビジョン・オープンシティ戦略を作りました。ご指摘のとおり今のまま人口が減り続けていくと我々の試算では2050年に13,000人台まで減る推計でした。過去の5年間の転入転出死亡出生の人口に関する4要素をそれぞれの割合から導き出して、その平均をずっとかけていきますと、2050年には13,000人台まで減る見込みです。今回人口ビジョン・オープンシティ戦略を作るときに、そのまま13,000人台でよしとしていません。人口減少していく道筋は変えられないにしても、何とか抗ってその人口の減少幅を少なくし、各年度のそれぞれの要因の人数を4%ずつ減らすことによって、2050年に15,000人を目指すということにしていました。ただ実際のところ、令和4年度から6年度までの人口の動態を見ますと、亡くなっている方が700人ぐらいで生まれている方が100人ぐらい、いわゆる自然減と言われているのが600人ぐらいいます。一方で、転出転入の差の社会減が250人ぐらいで計850人ぐらいずつ現在人口が減っている状況です。この中で、釜石の人口ピラミッドを見ますと、高齢化率が高いので、自然減に抗うのはなかなか難しい面もあると思っています。ただ一方で、250人いる社会減をいかに抑制していくのが我々の仕事だと思っています。特に若い世代にどうやって残ってもらうのか、これは企業誘致や地場企業の集積、或いは移住定住の推進などをフル活用し、社会減を減にすることによって将来的な人口減も、抑えられるのではないかとということで現在施策を打っています。代わり映えしない施策ではないかというご指摘もありましたが、確かに抜本的に思い切った施策を打つにはなかなか勇気も要りますが、特に若い人たちの声を聞きながら色々な施策を考えています。今日総合政策課長のお話にもありました来年度の若者応援事業は、新しい事業です。釜石に残りたいという若い人たちが増えてきています。この方々がどうやればこの地域にいられるのかを一生懸命一緒に考えようというような趣旨の事業を組み立てていますので、これからもう少し力を入れながら、人口減に抗っていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

<都市計画課長>

まずこの資料5ページ、イメージ図ですが、都市計画区域以外に住んでいる方やどうしてもここに住まないと生活ができない方もいます。農業や漁業をやっている方などは、その近くに住まないと生活や仕事ができないという事情もあります。そういったところを無理やりこの中心地の方に集約するという計画ではないということがまず前提となっております。あくまで今後の20年間の計画ですので、強制的な集約ではなくて様々なインセンティブや補助等を組み合わせ、自然にこの区域の中に人口の密度が集中で

きるようなエリアを構築していくというところでは、この都市計画区域の中でもこういった居住誘導区域が設定されて、将来的にはそこに住むことによって利便性が高まっていく、みたいなところを、これからお示しして、皆さんで議論して理解いただく、という場面、説明会等を行って参りますのでよろしくお願い致します。この立地適正化計画は、約 92,000 人いたまちが約 17,000 人になりますので、そのままの規模でいいかということではなくて、やはりそういった都市の体質を改善していくために、しっかりそういった計画を作りなさい、と国から示されているものですから、皆さんのご意見聞きながらまとめていきたいと考えています。

【Cさん】

ありがとうございます。動的な対策は色々ともありますので、やはり各地区の住民の意見を聞いて実施に向けて進めることが大事だと思いますので、よろしくお願い致します。

もう1つが、資料をいただきましたが表紙に載っている絵は何ですか。

<総合政策課長>

6月に完成そして9月に開庁する予定の新市庁舎の完成予想図です。

【Cさん】

後期基本計画に新市庁舎のことは記載されていますか。

<総合政策課長>

56ページをご覧いただきたいと思います。基本施策の中の計画の推進の中で、3番の効率的な安全な行財政運営ができるまちの3-1。行政サービスの最適化と利便性の向上の3新市庁舎への移行と旧市庁舎の跡地利用ということで、こちら後期の計画にも掲げています。また、防災の部分で135ページをご覧いただきたいと思います。新市庁舎は防災拠点といった側面も持っていますので、4番新市庁舎による災害対応ということで、災害拠点として、新市庁舎をこういった活用していくという部分も、後期計画に記載しています。

【Cさん】

よく探さないとわからない程度の記載ですよ。震災後、釜石市でフロントプロジェクトという計画がありました。FP1、2、3ということで、FP1が大町地区の商業施設でイオンとTETTO。FP2が新市庁舎、FP3が魚河岸テラス。この3つを造り有機的に繋いで賑わいを作りたいということがありました。新市庁舎は色々な問題がありましたが何とか今年完成というところまでこぎつけたわけですから、フロントプロジェクト計画は、今年

がスタートするわけです。ところが、ここにはそういったことが1つも記載されていない。自分たちが作った計画で設備ができて動き出す初年度に、そういうものが一切盛られていない。総合計画だから、この問題はあまり触れないにしても、新市庁舎はその中に職員が入って、今までバラバラだった組織を実態的、有機的に繋いで、より高度な行政を市民は期待するわけです。総合計画の前段でフロントプロジェクト計画が達成できず中間年で完成できると。後期で設備ができて色々な活動ができる、それに向けての計画を作っていくのがこういった総合計画のあり方じゃないのでしょうか。3月に完成する予定が6月になって9月です。これだってホームページの新市庁舎建設のところに1行載っただけですよ。新市庁舎が開庁する記念すべき年なのに載っていません。家屋が新しくなるということは、とても大きい出来事ですよ。釜石のこの冷え込み方はなんでしょう。予算も50億でスタートして、70億になって引っ越しを含めて82億とネットで調べると出てきますが、市役所のホームページを見ても、予算関係がどういうふうに変遷したのかは、私は確認できませんでした。今の庁舎を解体などすれば物価も上がっているのに100億を超えますよね。必要なことだからお金がかかるのはいいです。ただ、なんでこんなに釜石は冷え切っているのか。もう5か月しかないのに、新市庁舎の内部の情報も公開されていないじゃないですか。もうちょっと市民の目線に立ってお伝えすることが大事なんじゃないですか。

そのことよりも釜石市はフロントプロジェクト計画を忘れているのですか。副市長は担当でしたよね。何で盛り込まないのですか。

<副市長>

新市庁舎の情報出しはこれから計画的にやっていくと思うのですが、ここ最近動きが大きくなかったのでお知らせすることがなかったかもしれません。その辺は担当課の方でも考えていますので、開庁に向けたスケジュール感や市民の皆さんへのアナウンスはきちんとやっていきたいと思います。あともう1つ嬉しくないのかというお話もいただきましたが、第1にお仕事する場ですが市民の皆さんに来ていただく場でもあるので、市民の皆さんに喜んでいただけるような情報の出し方も併せて考えたいと思います。

フロントプロジェクトの関係ですが、確かにFP1、2、3とありまして、庁舎は1番最後です。復興事業が終わったのが令和5年3月ですが、庁舎の入札をやったのは確か令和5年11月でした。復興事業が終わって1番最後にやろうということで進めてきて、それが間もなく今年に完成ということで、今年の秋、フロントプロジェクト1、2、3が全部出揃ったというのは間違いなくそのとおりです。私が今申し上げるまでもないと思うのですが、東部地区が大きな被害を受け、釜石の中心をどこにするのかを皆で話し合い、やはり釜石の中心地は東部だろうということで、それを再確立するために、FP1、2、3を3つすべて東部地区の再整備を行ったと。釜石の拠点性を持たせようということで進めてきました。ただFP1、2、3は復興計画のときに使っていた言葉で、復興計画も完了しましたので

後期総合計画の中には、経過とかは特に書いていないのですが、気持ちとしては変わっていません。そこはご理解いただきたいと思います。

【Cさん】

答弁になっていないと思います。建物を3つ造って賑わいを作ると言っているのに、計画がありません。計画を作って終わりじゃないですよ。

<副市長>

少しだけ話しますと、東部地区の被害が大きかったときに、まちの中心をもっと西側にもってくるべきじゃないかという議論がありました。何度も話し合いをして、その時に市役所も今の場所ではなくもっと西だという話もありました。それも含めてまちの中心市街地はやはり東部地区であろうという結論に達して、大渡から向こうを再整備しよう。大渡から浜町まで商店会も4つあって住宅もたくさんありました。それを全部元通りには戻せないからポイントを3つ置こうよと。1つはTETTOの辺り。もう1つは市役所の辺り。もう1つは魚河岸の市場の辺り。ポイントを3つ置いて、その3つがだんだん大きくなって繋がるような形で市街地ができていくだろうと。ただ放っておくとまちが再建築できないということで大渡から浜町までに3つポイントを置いたのがフロントプロジェクトの1、2、3です。フロントプロジェクトの目的は、東部地区を再度、釜石の中心市街地として再構築しようということでした。それは商業の賑わいの拠点であったり、行政の賑わいの拠点であったり、水産業の復活であったり、それぞれ建物を建てながらソフト事業を同時にやっています。釜石魚市場に水揚げしてもらおうということも立派な事業です。イオンだけでなく、周辺に色々な公共施設等を集中させてお店の誘導をしたことも事業です。市役所を造ってそこに人が出入りする、バスも乗り入れする。全部合わせて東部地区の賑わいを出そうということで建物ができたから始まるということではなくて、もう日常になっていることだと思っていますが、分かっていただけかもしれません。

【Cさん】

分からない。釜石小学校の跡地に市役所を造ったということは、水海インターをフルインター化しないとあそこは袋ですからね。鵜住居方面には行けますが、津波があっても反対方向にしか行けないと。例えば県北の方は道の駅ができたりパーキングエリアができたりに建設が進んでいると言えますが、釜石は全然見えません。一応高速道路は完成しましたが、一番上につくのは水海インターのフルインター化で内陸方面につなげると。例えばそういうことだって全然出ていないじゃないですか。こういうふうに努力しているとか。或いは、大船渡病院に向けて集約して釜石からも患者が行く場合に、緊急避難路が大船渡病院にありますけども、釜石から行っても一旦下に降りてまた上がるのではなく、大船渡市の中心部にインターチェンジをつくって欲しいというのは、何年も前から県にも聴取して

いるわけだけど。例えば釜石から大船渡病院に行く場合だけでも高速から直で降りられるようにするとか。水海インターの必要性とか出ていませんよね。やっていたとしても見えなかったら見えないわけですから。そういった意味で、色々な市民のニーズを聞いて、フロントプロジェクトもそういう答弁で終わるのは私を惜しいです。

<副市長>

両石インターのことは、全く何もやっていないということではなくて、毎年何回もインターチェンジの必要性を訴えて、市長も何度も何度も国交省の大臣にも直接会ってお願いをして頑張っているつもりです。折に触れて様々な情報出しをしているつもりですが足らなかったことに関しては率直にこれから工夫しますけれども、進捗を建設部長から話します。

【Cさん】

やっていないとは思いませんよ。それを市民に伝えなかったら市民は分かりません。やっているから大丈夫というのは、何が大丈夫なのですか。何をやっているのですか。新市庁舎開庁も含めて、力を入れて情報出ししてほしいです。

<建設部長>

両石インターのフル化への情報提供不足についてご指摘をいただきました。令和5年度に沿線市町で構成する協議会を立ち上げ、国交省や地方国会議員等の方々と市長を含めて、様々な要望活動を継続してやっています。今日のご意見を踏まえて、情報出しはまさに今後の課題だと思っており、どういった情報出しができるかというのは、今後の検討或いは課題にさせていただきたいと思います。現状は、令和5年度以降、継続して協議会としての要望活動、或いは釜石市としての国への情報収集、そういった活動も併せてやっていました。何を根拠として要望活動しているのかという部分は、まさに新市庁舎です。一時避難所という機能を持つ中で両石インターから内陸部へ行けるように避難者の2次避難や後方支援活動等が可能となるよう機能強化を図っていこうということで、要望をさせていただいています。今年度もその活動をしていましたが、国から見込みのあるそういった回答を得ている状況ではありません。国が行う道路事業等への関わりの中で、事業展開が図れるかという部分については、まだ時間を要すると思っています。ただ、当然私たちも新市庁舎が建設されるという中で、より具体的に国への活動をさらに充実させていただきたいと思っています。実は2月6日に、そういったことを目的に南三陸国道事務所さんと意見交換をする場を調整しています。国との意見交換を繰り返し粘り強く、新年度も活動していきたいと思っています。繰り返しですが、市民への情報提供は、タイミングや状況を踏まえて改めて検討させていただきたいと思っています。

<総合政策課長>

総合計画後期基本計画でも、84ページの安全快適な生活環境の2番、安全安心な道路整備の部分で、両石のフルインターチェンジ化を目指していくということを掲げながら、先ほどご指摘のあった情報発信のあり方等も含めて、取り組みを進めていきたいというふうに考えています。

<市長>

少し補足をさせていただきたいと思います。確かに情報の出し方は工夫して情報発信しなくてはいけないなというふうに思っていました。両石のフルインター化は、毎年7月に国に要望しに行っています。要望書を50部持って、局長或いは次長、或いは国交省の担当課等に要望書を届けています。市町村要望でも言っていますし、道路要望も年2回あります。7月と11月にも国交省の方に行っているところでした。どうして釜石に両石のフルインター化が必要なのかというのは大きく2点ありますと説明しています。今、中央インターから公共埠頭まで行くのに信号を12個通らなくてはいけません。でも、公共埠頭からのコンテナの増強を増すために、その上を行って両石インターで降りることができる信号は2個で行き、これは内陸の荷主さんからの大きな要望です。どうしても狭い下の道路に行くよりも、上の道路で信号は2個で公共埠頭の前まで行きますので、そういった港湾の役割、産業道路としての役割として両石のフルインター化をお願いしたいというのが1点目です。そしてもう1つの両石のフルインター化の大きな役割は、先ほどご指摘がありました防災上の災害時の道路としての役割です。当然、日本海溝千島海溝沖の大地震により、一部の道路が浸水区域となることもありまして、内陸からの支援物資が新市庁舎に届かなくなりとても困った状況です。だから両石のフルインター化をすることによって、新市庁舎に支援物資を届けることができるようにと、防災上の災害時の道路と産業用の道路の2つの役割がありますという話を、国交大臣を含め徹底的に話をさせてもらっていました。とにかく、さらに道路を走る車の交通量を増やしてくれと。国交省と財務省の方からしても、優先順位を付けて順番にやっていきたいと思っているという状況が現状です。そして、国交省や財務省、大臣や鈴木先生にも会ってきました。鈴木先生が毎年8月に漁港検診に来ます。その際は毎年、釜石に泊まってくれています。その時に追っかけて道路と港湾の話は必ずするようにしています。なかなか前に進まない中で、果たしてこれほどまで意味のある情報の発信だろうかということです。実は毎回同じ答弁です。でもやらないわけにはいきませんから。港湾の振興・拡張と両石のフルインター化は釜石の生命線だと思っていますから。今回1月に臨時会で5億ほどの国の補正予算を経済対策でつけさせていただきましても、県内の市長の皆さんとお話ししますが、焼け石に水なのじゃないかというのが本音なのだろうと思っています。やはり産業振興や企業誘致には、もっと大きい話なのだろうと思います。釜石で商売ができる環境を整えられるかどうかは行政の大きな役割だと思っています。平成26年にイオンタウンが釜石に来ました

が、平成 26 年に三沿道は開通していません。でもイオンタウンの社長と話をする、三沿道が開通し商圈がでかくなりますからという話なのです。両石のフルインター化も釜石に大きい経済効果があると思っています。実は、いわいどりの小山も現在第 2 工場を作っていますけれども、どうして釜石に来たのか社長に話を聞くと、それは三沿道ですよ。縦と横の結節点が釜石だからです。この社会資本の地域経済に与える影響は、ものすごいものだと思っていました。だから、私は行政がやるものとして社会資本の整備を一生懸命やる。そうすることによって釜石の産業振興、最終的には社会増に繋がるのだと。そして結果的には自然増にも繋がるのだらうと思っていました。だから一生懸命国の方に行っています。そのたびごとに、どこに要望に行ったのか言うべきだと言うのであればまたさらに検討させていただきたいと思っています。

【Aさん】

広報の後ろのページでもいいので、情報の出し方は考えるべきではないでしょうか。例えば、市は現在こういうことをしています、道路を拡張しています、福祉施設を作っています、自主防災組織を作っています等、そういうコーナーを作ってもいいのではないのでしょうか。

<オープンシティ・プロモーション室長>

広報の後ろのページでは、市民百景という市内で頑張っている人をピックアップして掲載しています。それが市民の皆さんから好評を博して、そのページを差し替えるという話ではないかもしれませんが、市内で今取り組んでいる旬の部分をピックアップして載せることはこれから調整して検討していきたいと思います。次の広報は既に構成が決まっているので、できるだけ早く対処したいと思いますので、よろしくお願いします。ちなみに、釜石の広報は今年、県の広報コンクールで 3 位に入賞しました。これは史上 2 回目です。そういった面では頑張っていますので、よろしくお願いします。

【Dさん】

市議会議員の定数の件でお話したいと思います。人口減少が進む中で、議員の定数の基準はどうなっているのですか。警察などは人口割で定数を出しているそうです。今は 18 人ですよ。人数は変わらないのでしょうか。

<副市長>

例えば市役所の職員の数であれば、人口に対して何人という標準的な目安はあるのですが、市議会議員の定数は人口によって決まるというのではなくて、常に議会の方で、市内外の情勢や釜石の人口を総合的に勘案して、あくまでも市民の皆さんに選ばれた議員の皆さんが自主的にお考えになっていることなので、ここではコメントができない状況もご

理解いただきたいと思うのですがよろしいでしょうか。

【Eさん】

娘が高齢初産で向こうの方で産んでから1ヶ月ほど釜石に帰ってきました。体調があまり良くなく、保健福祉部の方に連絡したら素晴らしい対応をしてもらったとのことでした。訪問までしてもらって、説明があって相談にも乗ってくれたということでした。またお礼を1つ言いたいなと思っていました。子育てしやすいまちだとか子育てしている人たちにもっと市としてアピールしてもいいのではないのでしょうか。ネットニュースでは、盛岡の次に住みやすいまちに釜石が入っていました。半年後ぐらいには、消滅可能性都市として出ています。だから、こどもを増やすために子育てしやすく住みやすいまちということをもっとアピールした方がよろしいのではないかなと思います。娘もそういう対応をされて釜石に帰ってきたいなと言っていました。医療や働き先等の問題もあって今は踏みとどまって戻っています。やっていることはわかっています。でも、産科と小児科をもっと頑張っって引っ張ってきてもらえるような形をとっていただければと思っています。

<保健福祉部次長>

私たちは子育てに対する環境整備というところで一生懸命取り組みをさせていただいていました。今後もさらに市民の皆さんに喜んでいただけるような対応をしていきたいというふうに考えます。さらに、子育て応援パッケージとして、子育て支援の充実や経済的な支援を今後も人口減少に対応するために取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【Aさん】

枯れ枝や雑草も市の指定ごみ袋じゃないと出せませんか。

<市民生活部長>

基本的に個人の庭のそういった物を出すときには市の指定ごみ袋を使っていた方がいいと思います。ただ、市の方で年に何回かクリーンアップかまいしという活動をしていて、町内会単位でそういう活動をする場合は、市から透明な袋にシールを貼って出していいという対応をとらせていただいていますので、その機会もご活用いただければと思います。

■市長総括

お忙しい中、寒い中ありがとうございました。多くのご指摘等をいただいたと思っています。今日で7か所目の市政懇談会と冒頭でも申し上げましたが、やはり人口減少やまちづくり、産業振興等々の話だったと思っています。令和5年11月に釜石市長に当選してから、釜石

市の職員の説明の仕方にかなり難があるなと思っていました。毎年11月に地方創生アドバイザー会議を東京で開催しています。その地方創生アドバイザー会議は、釜石ゆかりの東大の先生や証券会社、或いは社長さんや部長さんを約10人呼んで、釜石の取り組みの状況を説明させていただき、様々なご意見を伺うというところです。そのときにも、釜石はいいことをやっているのにアピールが下手だよねと。もっとアピールした方がいい、こういうアピールの仕方があるよという話をされました。今日さまざまご指摘をいただきましたが、アピールの仕方、こちらからの情報発信のあるべき姿を今日感じました。明日まで市政懇談会がありますので、何か質問がありましたら明日でもまたご意見をお伺いしたいというふうに思っています。そして明後日に総合振興審議会があり、有識者の皆さんからこの計画のご意見を伺うことになっています。あとは市議会の全員協議会を開催させていただきましてさらに良いものにさせていただきたいと思っています。今後ともどうか釜石をよろしく願います。本当にありがとうございました。